

8902 英介がひさしぶりに登校すると、・・・

英介がひさしぶりに登校すると、雪子が秋男と一緒にやってきて、
「今日は、高橋義孝先生の特別集中講義があるのよ」
と教えてくれた。

高橋義孝先生は九州大学の教授で、授業のためヒコーキで通勤していた。暇
を見つけて、他の大学へも、たまに教えにくるということだった。大教室は、
この博識粹人の講義を聞こうという学生であふれていた、秋男は
「この先生は、精神分析と夢判断とヒステリーの研究の大家だ」
と教えてくれた。

嵐山 光三郎『口笛の歌が聴こえる』

[許容訳例]

When Eisuke returned to school after a long absence, Yukiko came up to him together with Akio and said, "A special intensive lecture is being given by Professor Yoshitaka Takahashi today."

Professor Takahashi taught at Kyushu University, and it was said that he went to the university for his lectures by plane, and that in his spare time he occasionally came to give lectures at other universities. The spacious classroom was full of students who wanted to hear a lecture by such a refined man of letters. Akio said, "He's an authority on psychoanalysis, the interpretation of dreams, and the study of hysteria."

[翻訳例]

Going back to school after a long absence, Eisuke met Yukiko, who came up with Akio and informed him that a special intensive lecture was being given by Professor Takahashi Yoshitaka that day.

Professor Takahashi, who taught at Kyushu University, was said to commute to school for his lectures by plane. Occasionally, when he found time, he also came to teach at other universities. The spacious auditorium was overflowing with students eager to hear a lecture by this man who thus combined scholarship and stylish living. "The professor," Akio informed him, "is an authority on psychoanalysis, the interpretation of dreams, and the study of hysteria."

■英介がひさしぶりに登校すると、雪子が秋男と一緒にやってきて、
「今日は、高橋義孝先生の特別集中講義があるのよ」
と教えてくれた。(8902)

★「ひさしぶり」はおそらく学校をしばらくさぼっていたか、あるいは病気だったのかもしれない

れません。こういう場合、普通は after a long absence とか after a long interval などを使います。あるいは for the first time in months [years] という表現も前後の関係によっては使えます。「やっと、やがて」と覚えていると「ひさしぶり」にはなかなか使えないと思います。もう一つこういう場合に使える単語として finally あるいは eventually があります。なお、辞書には「ひさしぶり」に after a long time が出ていますが、ここでは使えないと思います。

★「登校する」は return to school とか go back to school あるいは go to school だけでもいいです。school の代わりに college を使うなら go to the college でしょう。class を使うなら attend classes とすれば非常にいいと思います。

● [と] (同時)

この [と] は「同時」ですから When he went (back) to school after a long absence, Eisuke…とすることもできますが、例えば Going (back) to school [Attending classes] after a long absence, Eisuke met Yukiko, who came and said, …のようにすることも出来ます。何となくこの方が英語らしい表現に思えます。つまり When Eisuke returned to school…という表現はあくまで久しぶりに学校に行った[戻った]ということがポイントであって、具体的にそこにいたとか、例えば教室に入ったとかいうところまでいかないわけで、そのためどうしても次の Yukiko came up…が唐突な感じでうまく続かないように思えるのです。ですからそこをうまくつなげるために Going back to school…, Eisuke met Yukiko, who…とするわけです。ただこれはあくまで欲を言えばということで When…としても決して間違いとまでは言えません。

★「雪子が秋男と一緒にやってきた」は、文字通りなら came up to him together with Akio ですが、英語としては came up with Akio としてもいいです。

● [て] (動作順次)

この [て] は「動作順次」ですから and です。

★「高橋義孝先生」は Professor Yoshitaka Takahashi です。

★「特別集中講義」というのは、本来なら一年間でとるべき単位のものを一日か二日位でまとめてとれるものですから special intensive lecture でぴったりです。辞書で「集中講義」を見ると、intensive series of lectures と出ていますが、これではシリーズ、つまり数回に亘ることになりますからここでは使えません。

★「(高橋義孝先生の) 集中講義がある」は、「今以後」のことですが、すでに予定されていることなので、a special intensive lecture is being given by Professor Yoshitaka Takahashi です。こういう場合 will be given…は使いません。

● 直接話を間接話法で訳す

日本文では「今日は・・・があるのよ」となっていますから直接話法で訳しても間違いではありませんが、日本文と異なって、英語では無闇に地の文の中に直接話法を入れるのを好みません。それに、ここでは「・・・と言った」ではなく「・・・と教えてくれた」となっ

ているので、間接話法にして and told [informed] that a special intensive lecture was being given by ~ that day とした方が英語らしくなります。

■高橋義孝先生は九州大学の教授で、授業のためヒコーキで通勤していた。(8902)

★「九州大学の教授」は a professor at Kyushu University です。この「の」は at です。因みに、「九州大学のアメリカ文学の教授」は a professor of American Literature at Kyushu University です。なお、ここでは「高橋義孝先生は～の教授・・・」ですから Professor Yoshitaka Takahashi was a professor at ~と繰り返してもそれほどおかしくありませんが、繰り返しを避けて Professor Yoshitaka Takahashi taught at Kyushu University としてもいいです。

● [で] (順次)

この [で] は「順次」ですから、and を使ってもいいですが、and の代わりに関係代名詞を使って Professor Yoshitaka Takahashi, who taught at Kyushu University, ...と続けた方が英文が締まります。

★「授業のため」は for his lectures でいいです。この for は斉藤秀三郎のいう「不定詞代用の for」です。to give his lectures と言い換えても構いません。

★「ヒコーキで」は by plane です。

★「通勤していた」は、簡単に went to the university [school] でもいいですが、commuted to ~も使えます。また travelled to and from ~としてもいいです。

■暇を見つけて、他の大学へも、たまに教えにくるということだった。(8902)

★「暇を見つけて」は when he found time がいいです。なお、後ろに to do something が続く場合とか、あるいは前にのべたことを受けている場合には the time になります。たとえば、Do you ever go to visit him? Yes, when I can find time.のように、他には in his spare time も使えます。spare が使えるなら free もつかえそうですが、これは leisure に近くなるので避けた方がいいでしょう。

★「他の大学」は、一つの大学とは考えにくいので another university ではなく other universities とするべきでしょう。

★「たまに」は occasionally ですが、once a while も使えます。

★「教えにくる」は come to give lectures とか come [would come] to (teach) ~ です。

● 文構造 (伝聞の処理)

「・・・ということだった」は、日本文では「暇を見つけて、他の大学へも、たまに教えにくるということだった。」だけについているので、...and it was said that...としてもいいのですが、その前の「高橋義孝先生は九州大学の教授で、授業のためヒコーキで通勤していた。」も内容的には「伝聞」ですから、and it was said...は英語として唐突な感じになるので、Professor Yoshitaka Takahashi, who taught at ~, was said to commute... by plane. Occasionally...とした方が英語としてスムーズに理解できると思います。

■大教室は、この博識粋人の講義を聞こうという学生であふれていた。(8902)

★「大教室」は the large classroom では弱いので the spacious lecture hall などを使ってみる

といいと思います。

●「隠れ連体修飾節+体言」(博識粹人)

「博識粹人」は難しい。これは「博識でありかつ粹である人」ということでしょうか、いろいろ考えられます。辞書には「博識の、博学の」に well-read [informed]; learned などが出ています。learned なら使えますが、他はここでは使えないでしょう。たとえば、毎日ちゃんと新聞を読んでいる位の人でも well-informed と言いますから。また、「粹人」は、辞書には a man with refined [cultivated] tastes と出ていますが、refined とか cultivated という「上品な、洗練された、文化的な」といった感じが強いのですら、この「粹人」はもうちょっと具体的なイメージを伴っているような気がします。簡単に by a refined man of letters でも通じると思いますが、できれば、by such a refined man of letters としたいです。この such で「こんな a refined man of letters な人の講義だから一つでも聞いてみたいという感じが出ます。ただ、日本語の「博識粹人」は「博識の人でありかつ粹である人」という「連体修飾節+連体修飾節+体言」を隠し持つ「隠れ連体修飾節+体言」ですから、英語では「名詞(a man)+関係詞節(who is a man of great scholarship)+関係詞節(who makes a stylish living)」ですが、それを。「こんな博識粹人の話なら聞いてみたい」という感じを合わせて訳すと by this man who thus combined scholarship and stylish living と組み合わせると日本語のレベルになうのではないだろうか。

●「連体修飾節+体言」(講義を聞こうという学生)

「講義を聞こうという学生」も「連体修飾節(講義を聞こうという)+体言(学生)」ですから、英語では「名詞(students)+関係詞節(who wanted to hear a lecture)」ですから students who wanted to hear a lecture ですが who wanted to より eager to を使った方が英語として vivid な感じがします。

★「学生であふれていた」は was full of students でもいいですが、日本語が「あふれていた」なので was overflowing with students の方がいいでしょう。

■秋男は「この先生は、精神分析と夢判断とヒステリーの研究の大家だ」と教えてくれた。(8902)

★「この先生」は、英語では He です。なお、会話ですから He is ではなく He's です。

★「精神分析」は psychoanalysis です。

★「夢判断」は、普通 the interpretation of dreams とか the dream interpretation と言います。辞書には「夢判断・夢解釈学」として oneirology も出ています。

★「ヒステリーの研究」は the study of hysteria です。

★「(～の) 大家だ」は He's (acknowledged) an authority (on ～)です。

★「(秋男は・・・)と教えてくれた」の内容は「伝聞」ですが、ここはむしろ人々の言っている評判ですから直接話法がいいと思います。Akio said, "..."でもいいし, "The professor," Akio informed, "..."です。